

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

(49)

「山に登ってみたい
か。五葉山だよ。地元で
はけっこう親しまれてい
るんだ」

「私でも登れるかし
ら」

「大丈夫だよ。ゆっく
り登ろう」

私たちは五葉山の麓、
上有住中沢の自宅を五葉
山に向けて朝八時に出発
しました。昭和五十一年

十月十七日、秋の心地よ
い乾いた空が青く広がっ
ていました。松山集落を

通り、山肌を縫うように
車は進んでいきます。

登山道の登り口はとて
も急で、一歩一歩の歩み

はまさに山に登るといっ
感じます。私たちはこの
年の九月に結婚式を挙
げ、登山はそれから一カ
月後のことでした。

前を行く夫は私の速さ
に合わせてゆっくりと歩
いてくれています。「ヤ
マザクラ」「トチノキ」

「ナカマド」など森の
木々の名前を教えていた
できました。

森深く進んでいくうち
に「ああ、森っていいな
木々に包まれている。森

の匂い、森の音、森の風
がいい」。いつのまにか

辛かったはずの登山が楽
しみに変わっていったの

は不思議でした。

岩手県南部、一関市で
生まれ育った私にとっ
て、初めての五葉山麓は

驚きの連続でした。深い
森特有の匂い、音、風は

神秘的で、自然の営みに
魅了されたのです。

「ホーヤッホー！」と思
いっきり叫んでみたい衝
動に駆られるほどでし
た。

五葉山神社では、これ
から結婚式を挙げようと
している人たちに出会っ
たことは驚きでした。新

五葉山神社では、これ
から結婚式を挙げようと
している人たちに出会っ
たことは驚きでした。新

六十度の大パノラマで

五葉山神社での結婚式

住田町上有住 川村 喜和子

「モミジ」「ウルシ」「ナ
カマド」が鮮やかに色
づき、「どうぞいらっし
やい、いらっしやい」と

招いています。私たちを
紅葉が深まる山麓へと誘
ってくれたのです。

心地よい汗とともに疲
労が溜まってきたとき、
稜線へ出たのです。平ら
で緩やかな丘がどこまで

も続いています。「ヤッ
た

「私たちも実はこの九
月に結婚をしたばかりで
す。それだけに、きょう
の結婚式が身近に感じら

れま

れま

た松山コースではなく、
見晴らしがよく、変化に
富んだなだらかな稜線を
進む黒岩コースを歩いた
のです。

その後、五葉山開きに
は家族で登るようになっ
ていました。登山道で会
う人々は「こんにちは」

「お疲れさまです」「もう
少しで稜線ですよ」と声
を掛け合います。大自然
は人を素直にさせるので
しょうか。

人々の心を豊かにし、
包み込んでくれるような
五葉山。登山のたびに思
い出すのは、五葉山神社
で結婚式を挙げたお二人
のことです。あれから三
十三年、私たちの人生と
重ね合わせ、そっと思い
出します。

【執筆者プロフィール】
一九四七年、一関市
出身、住田町上有住に
住。キュウリ、トマトな
ど家庭菜園づくりに汗を
流す。

リレー
エッセイ



五葉山神社。33年前ここで結婚式を挙げていた「二人」のことを思い出します